

「団長の独り言・第三十八回公演
「ざ・クリンキーパー」

「整理整顿」

日曜日の午後6時30分、テレビをつけると「サザエさん」が始まった。

「まだやってんだ……。」

子供の頃、毎週欠かさず見ていたが、高校生になると日曜日の夜はバイト、バイトの日々だったし、ましてや劇団ふあんハウスを立ち上げてからというもの、その時間帯は稽古、稽古の日々。

それなのに、私は今「サザエさん」を見ている。

本当なら、今日も朝4時起きで仕事をこなし、疲れた身体に鞭打って慌てて稽古場に向かい、「団長モード」に気持ちを切り替え、みんなと切磋琢磨しながら、「クリンキーパー」と向き合っていたはずなのになあ。

むなしさと寂しさが込み上げてくる。二ニュースの報道では、感染者数がピーク時に比べ、激減している。

これもひとえに、各自治体の長の方のリーダーシップと、国民の努力の成果なんだと少し気持ちも和らぐが、その一方で「8月公演出来たんじゃないか？」ってつい考えてしまう……。

しかし、現実的に考えてそれはやっぱり厳しい……8月公演中止はやむを得ない決断だった。

その公演中止のご報告を、共催の板橋区文化国際交流財団、各スタッフさんにお伝えしたところ、皆さん「勇気ある決断」だと言って下さり、中でも、音声ガイドのナレーションを担当して下さっている劇団ネーム「ボイス・エマノン」さんからいただいた、温かいメッセージには、涙が出て仕方なかったです。

今しばらくは、土日が来る度に調子の狂う感じが続くと思うけれど、現実のものとして受けとめ、ぼつかり空いたスケジュールで、「ふあんハウス」にあり！ってのを示す「何か」を行いたいなあーと、ぼんやりながら思う。ただ、それもこれも、皆が安心して集まれる環境が整ってからでないかと、何も話が前に進まないだけだね……。

というわけで、外出自粛要請の出ている土日を用意に使わねばならん！と、劇団関連で撮りためまくっている写真やビデオの整理をしているわけだけど、その数が膨大過ぎる！どこからどう手をつけていいやらって感じ。手当たり次第CDやDVDに残された過去の稽古風景や写真、動画の整理をするのだが、どれもこれも若い……ビデオに映る私。

まあー当たり前なんだけどね。

で、「夏の夜空へ」って作品のDVDを観ていたら、亡くなった三田秀さんが最高に生き活きとしている姿が！

その次に観たDVDには、「ありがとう、お父さん」の取材のため、劇団メンバー達と共に、私の車で岐阜に行った時のドキュメンタリー映像が写っていた。

そこにも秀さんの笑顔……「長距離ドライブは何十年もやっていないので、楽しみですよ」って笑っていた。

秀さんは、自分が演じる「耕一郎」のモデルとなる私の親父の墓に手を合わせ、首を垂れて一生懸命祈っていた。

今でも、秀さんは生きてる気がしてしょうがない。

秀さんには随分厳しい事を言ってきた。彼も辛い想いを何度もしたと思う。

それでも彼は、どんな時でもいつも話題の中心にいて、みんなを笑顔にしてくれる不思議な人だった。

稽古を行えば、変化球ばかり投げつけて、彼にしか出来ない芝居の連発だったけど、秀さんと芝居を創る事はとても楽しかった。

そんな事をばーつと考えていると、一向に作業がはかどらない。

でもね、こういう時間も今の私には必要なかもしれないと思える。

せっかくな一回休み期間になったのだから、私の性に合わないけれど、ちょいと「ばーつ」としてみますか……。

つてなこと、のんびりと先の進めぬ整理をしていると、物入れの奥から、H-8ビデオテープが大量に出てきた。

かれこれ20年くらい前になるかな？とあるテレビ制作会社のディレクターMさんが、劇団ふあんハウス特集の番組を作る企画を立ててくれて、おおよそ1年越しで稽古場に取材に来てくれていてねえ。

基本的にすべて撮影オッケーって事にしていたので、稽古初日から、本番を終えるまで、怒る、笑う、泣くメンバーを赤裸々に撮影してくれていた。

結果としてその企画は没となり、番組として日の目を見ることはなかったのだが、彼は、「せめてもの御礼」という事で、撮りためた編集前のH-8ビデオ全てをプレゼントしてくれた。

「そのうち、じつくり見よう」って思っていたけれど、あの頃の劇団は、方向性の違いからくる揉め事続きで、それでも前に進む事で必死だったから、Mさんが撮ってくれたビデオを観る心の余裕がなかった。

やがて月日は流れ、そのビデオを見るデッキが我が家からなくなり、ビデオの存在も忘れていたけれど、このタイミングに出て来てくれたので、これも何かのお告げかな？と思い、H-8ビデオを再生するデッキをアマゾンで購入しましたよ。

記録用としてデジタル変換する予定なので、どんな映像が写っていたのか？アマゾンからデッキが無事届いたらご報告しますね。